

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岡山市立第二藤田小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-0221

岡山市南区藤田595番地

E-mail [fujita2s@city-okayama.ed.jp](mailto:fujita2s@city-okayama.ed.jp)

Website <http://www.city-okayama.ed.jp/~fujita2s/>

幼児児童生徒数 男子 177名 女子 165名 合計 342名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「未来に向け 自ら学び 心豊かでたくましい児童の育成」を学校教育目標としている。ESDを中心的な原動力と捉え、ESDの実践を通して課題解決力・かかわる力・実践力・コミュニケーション力の育成を目標とした。

具体的には、中学校区全体で共通理解した活動計画を柱に、①地域に係わる活動、②国際理解に係わる教育、③環境・福祉に係わる学習、④食・農業に係わる学習を行った。

### ① 地域に係わる活動 3年生【二藤学区のお宝大発見】

ポンプ場(農業用水)、神社、公民館、児童館など「地域の宝」とよぶことができる場所について調べてみると、それぞれの場所がもつ役割(例 水田の多い地域なので、ポンプ場はなくてはならない存在である)と自分たちとのつながりが分かった。また、地域の達人とのふれ合い活動をすることで、自分たちの住む藤田には、伝統的な行事やスポーツ、芸術などに優れた技をもつ達人がいることを知り、「地域の宝」は、人でもあることに気づいた。活動を通して、地域への愛着や誇りが育った。

### ② 国際理解に係わる教育 6年生【世界の人にやさしくしよう】

国連平和大使を務め、ノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイの業績を調べる中で、世界に通じる「MOTTA INAI」の意義に関心を持ち、その後、「水」「食料」「エネルギー」「ごみ」に課題意識を持ち、それらを無駄にせず有効に活用するこ

とについて、調べたりまとめたりした。課題解決のために、自分たちにできることを考え、家庭ごみの削減を実践したり、運営委員会との共同活動として、全校にユニセフ募金の声かけを行ったりした。その後「食品ロス」や「食料自給率」「食文化」などについてさらに調べていくことになり、アジア農村協力ネットワークで開発途上国の農業支援者の体験や活動内容を聞き、世界の食糧問題にも目を向けた。日本発のMOTTA INAIの考え方の大切さを再認識し、持続可能な社会に向けて自分たちにできることを考え、グループごとにまとめ、地域の方や中学校区の他の小中学校の関係者に向けて発表した。

### ③ 環境・福祉に係わる学習 4年生【みんなに優しい町づくり】

ゴミ調べをしたり、岡山市環境局の方から話を聞いたりして3Rについて学んだ。また、ゴミ問題やリサイクルについて関心をもったことをテーマに、本やインターネットなどを活用して調べた。地球環境を守るために自分たちにできることは何かを考え、バリアフリーについて体験したり調べたりして、相手の立場や気持ちを想像し、理解しようとしながら人と関わっていくことの大切さに気づいた。その気づきをもとに「みんなに優しい町」をつくるために自分たちにできることは何かを考え、まとめたことを3年生に向けて発表した。

### ④ 食・農業に係わる学習 5年生【藤田の農業を知ろう】

学区で米作り体験をして、地域の稲作について関心をもった。また、近くの農業高校で行っている無農薬自然農法を見学し、環境にやさしい米作りについての理解も深めた。フィールドワークでは、学区の農家に出かけ、農業に関する苦労や工夫、思いや願いについてインタビューして地域の農業についての理解を深めた。分かったことをグループごとにポスターにまとめ、地域の農業について考えたことを整理した。地域の農業の未来について話し合い、自分たちが地域の農業のためにできることを考え、下学年や地域に向けて発信した。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

書籍 4年生「リサイクルでゴミを減らそう」佐島群巳 監修 ほるぷ出版 5年生「お米なんでも大百科」稲垣栄洋 監修 ポプラ社
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

1・2年生については生活科、3年生から6年生については、総合的な学習を中心に、社会科や理科の学習でもESDの内容に関する体験や学習を行っている。指導内容については、①地域・環境教育②国際理解（世界の幸せについて考える）③人権教育（共に生きる）④食・農業教育の4つの柱を考慮しながら年間計画に位置付けている。指導方法の工夫については、毎年3学期にその年度の実践を研究収録にまとめる過程で、見直しや改善を行っている。そのあと中学校区で実践発表を行うことで、お互いのよい点を見合う機会を設けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各教科の学習を基盤としてESDを総合的な学習の時間を中心に実践することができるように、また横断的・総合的な指導を行うために、ESDカレンダーを作成している。年間を通して活用できる地域教材の内容を整理した時系列の一覧表である。それを毎年更新しながら学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組むことができるように配慮している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童用の学校評価の項目に「地域に関心を持つことができるようになってきた。」という項目を設け、ESDについての成果がどのくらい表れているかをチェックするようにしている。また、児童には「ESD振り返りカード」にESDで学んだことについて記述させている。その結果から以下のような成果と課題が見られた。

成果 活動を通じた児童の変容

- ① 地域に関する学習や活動を通して自分たちが住む地域についての関心や理解が深まった。
- ② いろいろな人とのかかわりを通して、相手の立場や気持ちを想像し、理解しようとしながら人と関わっていくことの大切さに気づいた。
- ③ 環境や食料など世界が抱えている課題について関心や理解が深まった。

課題

- ① 中学校区内の他の小学校とは指導内容について共通理解を図りながら足並みをそろえて進めることができたが、小学校で学んだ内容を中学校で発展的に学ばせることができていない。
- ② 教職員のESDに対する十分な理解を図ることができていない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

岡山市 ESD・ユネスコスクール推進事業に関する中学校区研究収録に原稿を提出し、その内容を年度末に ESD 実践発表会の席で担当者が発表した。その席で、6年生の児童が「MOTTAINAI」について発表し、中学校区の地域の方や学校関係者が意見を出し合った。「水」「食料」「エネルギー」「ごみ」に課題意識をもち、それらを無駄にせず有効に活用することについて、これからの将来には欠かせない内容であると評価された。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

公民館の職員、中学校区の小中学校児童・生徒・職員、幼稚園保育園職員、町内会長、その他地域の住民が、年間数回行われる「中学校区 ESD 研修会・発表会」に参加し、意見を交換したり、発表内容に対する感想などを話し合ったりした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現段階では、中学校区の小中学校との交流はできているが、その他の国内外ユネスコスクールとの交流及びネットワーク形成はできていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

ESD 活動に参加することを通して、地域の方や保護者と児童との交流が活発になり、コミュニケーションをとる場が広がり、よりよくなることのできた。継続して地域との交流を行うことで、学校と地域とのつながりが保たれている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

中学校区内・地域での活動

- 4月 ESD担当者会
- 5月 ESD学校連絡会
- 6月 ESD地域連絡会
- 2月 ESD発表会

学校内での活動計画

今年度同様に以下の内容について1年を通して学習を行う予定である。

- 3年生 地域に係わる学習【二藤学区のお宝大発見】
- 4年生 食・農業に係わる学習【みんなに優しい町づくり】
- 5年生 環境・福祉に係わる学習【藤田の農業を知ろう】
- 6年生 国際理解に係わる教育【世界の人にやさしくしよう】